

広島修道大学のアドミッション・ポリシー（2021年度生用）

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

広島修道大学は、「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができる可能性を持った人を受け入れるため、以下の3点を学生受け入れの方針として明示します。

1. 求める学生像

世界、日本及び地域社会に関心を持つ人、商業、経営、経済、情報、文化、言語、社会、教育、心理、健康、法律、国際政治、環境、地域行政等に関心を持つ人、スポーツ・文化活動・ボランティア活動に取り組む人、多様な人々と「協創」して課題を解決しようとする人を広く国内外から求めます。

2. 入学試験制度と評価

本学の各学科・専攻で学ぶために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力

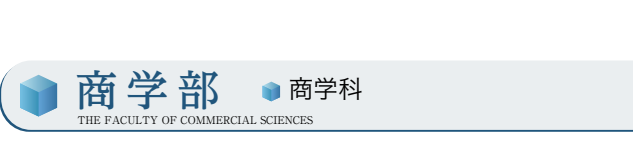


1. 求める学生像

商学部では、世界、日本および地域社会に関心を持つ人、商学、経営学に関心を持つ人、スポーツ・文化活動・ボランティア活動に取り組む人、多様な人々と協創して課題を解決しようとする人を広く国内外から求めます。基本的学力として、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と協創して学ぶ態度という学力の3要素を求めます。

2.入学試験制度と評価

商学部は、上記の基礎能力や資質を確かめるために、入学試験制度ごとに「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協創して



1. 求める学生像

商学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。具体的には、世界、日本および地域社会に関心を持つこと、商学に関心を持つこと、スポーツ・文化活動・ボランティア活動に取り組むこと、多様な人々と協創して課題を解決しようすることを重視します。商学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における国語・英語の教科に関する知識・技能を有する人。商学科の専門分野を学ぶために、社会に対する関心・基礎知識、学校等で修得すべき基本的な知識・教養を持っている人。

(2) 思考力・判断力・表現力

商学に関わる問題に気づく観察力、その問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって説得的に示す表現力、及びこの問題解決プロセスに主体性をもって取り組む態度を有する人。

(3) 主体性等

多様な価値観を持つ他者に対する包容力を備え、主体性を持って共感的な人間関係を創造しながら、同時に自らの意図を明確に表明して相互理解を図る能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

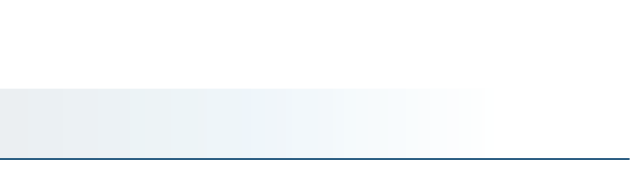
大学での学修には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得して

を見るために、(1)一般選抜、(2)共通テスト利用選抜、(3)一般・共通テスト併用選抜を実施します。上記の要素に加え、多様な人々と「協創」して学ぶ態度を見るために(4)総合型選抜、(5)学校推薦型選抜（公募）、(6)学校推薦型選抜（指定校）、(7)学校推薦型選抜（附属校）、(8)社会人選抜、(9)帰国生選抜、(10)外国人留學生選抜、(11)編入学試験、学士入学試験などの入学試験を実施します。

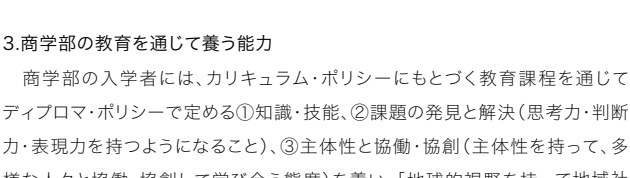
可否判定にあたっては、共通テスト、個別学力検査、調査書、面接、出願書類等を組み合わせて多面的・総合的に評価・判定します。

3. 本学の教育を通じて養う能力

本学の教育目標を実現するために必要な知識と技能を習得し、課題発見・課題解決に取り組み、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力を持ち、多様な人々と「協創」して学びあう能力を身に付けた学生を育成します。

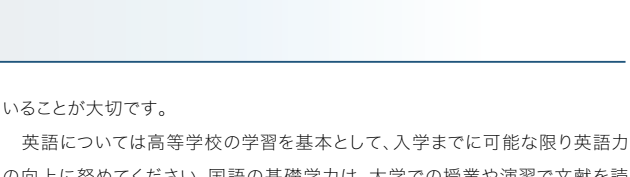


学ぶ態度」を多面的・総合的に評価します。評価の比重および評価方法は、各学科のアドミッション・ポリシーで明示します。



2.商学部の教育を通じて養う能力

商学部の入学者には、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じてディプロマ・ポリシーで定める①知識・技能、②課題の発見と解決（思考力・判断力・表現力を持つようになること）、③主体性と協働・協創（主体性を持って、多様な人々と協働・協創して学び合う態度）を養い、「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」を育成します。



いることが大切です。英語については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り英語力の向上に努めてください。国語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、社会に対する興味関心を広げるために、様々な本を読むこともおすすめします。

2.入学試験制度と評価

商学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期C日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期日程）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

商学科入学を強く希望し、高等学校等での正課・課外活動に積極的に取り組み、商学科で学ぶことの意義についてしっかりと興味・関心を持っている生徒を選抜するために、個別学力検査として小論文（資料小論文）、面接、出願書類によって、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価します。個別学力検査では、学力の3要素のうち知識・技能、思考力・判断力・表現力を見るために小論文（資料小論文）を出題します。面接では自己アピール、志望理由、高校生活などを含めてコミュニケーション能力を見ることで、学力の3要素全てを評価します。出願書類では、学力の3要素を、調査書、志望理由書、活動報告書によって評価します。総合型選抜[活動実績重視方式]では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置いて評価・判定します。

総合型選抜[小論文重視方式]では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜(公募)

学校長から推薦され、商学科入学を強く希望する学修意欲の高い生徒を選抜すべく、一定の評定平均値を条件に、所有する資格・検定試験等の成績・面接・出願書類・推薦書・調査書等にもとづいて多面的・総合的に評価します。英語方式では、英語の個別学力検査で知識・技能、思考力・判断力・表現力を評価します。集団面接、調査書、志望理由書では、学力の3要素を全て評価します。指定資格方式、英語資格方式では、資格・検定等の書類、志望理由書、調査書、個別面接によって学力の3要素を全て評価します。

学校推薦型選抜（公募）では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜(指定校)

商学科への進学実績をとまなう高等学校等を対象に、学校長が推薦し商学科入学を強く希望する生徒を選抜すべく、一定の評定平均値を条件に、面接・出願書類・推薦書・調査書等にもとづいて学力の3要素を多面的・総合的に評価します。学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素全てに同等の比重を置いて評価・



1. 求める学生像

経営学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。具体的には、世界、日本および地域社会に関心を持つこと、経営学に関心を持つこと、スポーツ・文化活動・ボランティア活動に取り組むこと、多様な人々と協創して課題を解決しようすることを重視します。経営学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における国語・英語の教科に関する知識・技能を有する人。経営学科の専門分野を学ぶために、社会に対する関心・基礎知識、学校等で修得すべき基本的な知識・教養を持っている人。

(2) 思考力・判断力・表現力

経営学に関わる問題に気づく観察力、その問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって説得的に示す表現力、及びこの問題解決プロセスに主体性をもって取り組む態度を有する人。

(3) 主体性等

多様な価値観を持つ他者に対する包容力を備え、主体性を持って共感的な人間関係を創造しながら、同時に自らの意図を明確に表明して相互理解を図る能力を有する人。

判定します。

(7) 学校推薦型選抜(附属校)

【専願】

志望理由書にもとづいて商学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて商学科で学修することの意義を理解し、学修意欲があることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てに同等の比重を置いて評価・判定します。

(8) 帰国生選抜

総合型選抜[活動実績重視方式]と同じ方式で評価します。

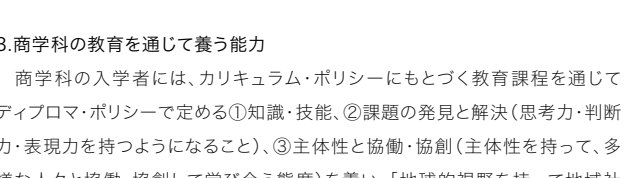
帰国生選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置いて評価・判定します。

(9) 外国人留學生選抜

外国人留學生選抜では、入学後の学修に必要な基礎学力を有している外国人留學生を選抜し、小論文、日本留学試験（日本語・総合科目）の成績、面接、出願書類等で能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

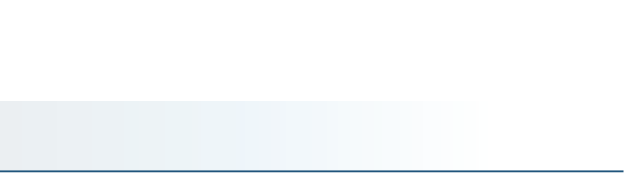
(10) 編入学試験・学士入学試験

編入学試験、学士入学試験では、主に3年次からの修学に必要な学力を有する者を選抜すべく、英語・小論文・面接・出願書類等で能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。



3.商学科の教育を通じて養う能力

商学科の入学者には、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じてディプロマ・ポリシーで定める①知識・技能、②課題の発見と解決（思考力・判断力・表現力を持つようになること）、③主体性と協働・協創（主体性を持って、多様な人々と協働・協創して学び合う態度）を養い、「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」を育成します。



【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学修には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。

英語については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り英語力の向上に努めてください。国語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、社会に対する興味関心を広げるために、様々な本を読むこともおすすめします。

2.入学試験制度と評価

経営学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期C日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜(前期日程)の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

経営学科入学を強く希望し、高等学校等での正課・課外活動に積極的に取り組み、経営学科で学ぶことの意義についてしっかりとした興味・関心を持っている生徒を選抜するために、個別学力検査として小論文(資料小論文)、面接、出願書類によって、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価します。個別学力検査では、学力の3要素のうち知識・技能、思考力・判断力・表現力を見るために小論文(資料小論文)を出題します。面接では自己アピール、志望理由、高校生活などを含めてコミュニケーション能力を見ることで、学力の3要素全てを評価します。出願書類では、学力の3要素を、調査書、志望理由書、活動報告書によって評価します。

総合型選抜[活動実績重視方式]では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置いて評価・判定します。

総合型選抜[小論文重視方式]では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜(公募)

学校長から推薦され、経営学科入学を強く希望する学修意欲の高い生徒を選抜すべく、一定の評定平均値を条件に、所有する資格・検定試験等の成績・面接・出願書類・推薦書・調査書等にもとづいて多面的・総合的に評価します。英語方式では、英語の個別学力検査で知識・技能、思考力・判断力・表現力を評価します。集団面接、調査書、志望理由書では、学力の3要素を全て評価します。指定資格方式、英語資格方式では、資格・検定等の書類、志望理由書、調査書、個別面接によって学力の3要素を全て評価します。

学校推薦型選抜(公募)では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜(指定校)

経営学科への進学実績をとまなう高等学校等を対象に、学校長が推薦し経営学科入学を強く希望する生徒を選抜すべく、一定の評定平均値を条件に、面接・出願書類・推薦書・調査書等にもとづいて学力の3要素を多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜(指定校)では、学力の3要素全てに同等の比重を置いて評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜(附属校)

【専願】

志望理由書にもとづいて経営学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜(附属校・専願)では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて経営学科で学修することの意義を理解し、学修意欲があることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜(附属校・併願)では、学力の3要素全てに同等の比重を置いて評価・判定します。

(8) 帰国生選抜

総合型選抜[活動実績重視方式]と同じ方式で評価します。

帰国生選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置いて評価・判定します。

(9) 外国人留学生選抜

外国人留学生選抜では、入学後の学修に必要な基礎学力を有している外国人留学生を選抜し、小論文、日本留学試験(日本語・総合科目)の成績、面接、出願書類等で能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

(10) 編入学試験・学士入学試験

編入学試験、学士入学試験では、主に3年次からの修学に必要な学力を有する者を選抜すべく、英語・小論文・面接・出願書類等で能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

3.経営学科の教育を通じて養う能力

経営学科の入学者には、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じてディプロマ・ポリシーで定める①知識・技能、②課題の発見と解決(思考力・判断力・表現力を持つようになること)、③主体性と協働・協創(主体性を持って、多様な人々と協働・協創して学び合う態度)を養い、「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」を育成します。

(別表)商学科・経営学科共通 各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法(◎は重点評価項目)

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜(前期日程)	◎	・個別学力検査 ・英語資格・検定(前期C日程のみ) ・調査書	◎	・個別学力検査		
	一般選抜(後期日程)	◎	・個別学力検査 ・調査書	◎	・個別学力検査	○	・調査書
	共通テスト利用選抜(前期日程・後期日程)	◎	・共通テストの成績 ・調査書	◎	・共通テストの成績		
	一般・共通テスト併用選抜	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 ・調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績		
総合型選抜	総合型選抜(活動実績重視方式)	○	・小論文 ・面接 ・調査書	◎	・小論文 ・面接 ・志望理由書 ・活動報告書	◎	・面接 ・志望理由書 ・活動報告書
	総合型選抜(小論文重視方式)	◎	・小論文 ・面接 ・調査書	◎	・小論文 ・面接 ・志望理由書 ・活動報告書	○	・面接 ・志望理由書 ・活動報告書
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜(公募)(英語方式)	◎	・個別学力検査(英語) ・面接 ・推薦書 ・調査書	◎	・個別学力検査(英語) ・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(公募)(指定資格方式)	◎	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・資格・検定等申請書	◎	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(公募)(英語資格方式)	◎	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・資格・検定等の証明書	◎	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(指定校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(附属校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書

人文学部 人間関係学科 社会学専攻

THE FACULTY OF HUMANITIES AND HUMAN SCIENCES

1. 求める学生像

人間関係学科社会学専攻は、高等学校卒業程度の学力、すなわち入学後に学士課程教育を受けるに必要な学力を有し、本学で学ぶ次のような人を広く国内外から受け入れます。具体的には、(1)社会における諸現象・諸問題に関心があり、自ら調査し、考えて、他者とコミュニケーションすることによって学ぼうとする人、(2)豊かな人間性を培うために、広い視野を有し、多角的な社会学的視点から実社会を理解しようとする人、(3)社会学の視点・方法・理論を修得しようとする人、(4)将来に関して目標を持ち、自己の人生を切り開くライフ・デザイン能力を身につけようとする人です。

人間関係学科社会学専攻が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における英語・国語・社会科・数学などの教科に関する知識・技能を有する人。すなわち、社会の構造や仕組み、社会に生きる人々の意識や価値観を理解し、社会における現象や問題・課題について理解・分析し、自身の考えを表現し、他者と議論する際に基礎となる能力を有する人。

(2) 思考力・判断力・表現力

自ら社会的な課題を発見し、社会問題の解決に取り組み、その成果を社会的に表現するために必要な社会的思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力を身につけるために主体性をもって取り組む態度を有する人。

(3) 主体性等

激しく変動していく現代社会において、多様な価値観を持つ他者に対する包容力を備え、主体性を持って多様な人々と学びあう態度と、相互理解を図る能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、英語と国語については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り基礎学力の向上に努めてください。基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、自分の興味関心を広げるために、様々な本を読むこともおすすめします。

2.入学試験制度と評価

人間関係学科社会学専攻は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期C日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜(前期日程)の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

人間関係学科社会学専攻への入学を強く希望し、社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有している学生を、主として個別学力検査に基づいて、面接、自己申告書、調査書の内容、高等学校などでの活動・経験などを加味して選抜します。さらに、面接にもとづいて、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性等」を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜(公募)

人間関係学科社会学専攻での学修に意欲を持つ者で、社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有していると高等学校長などから推薦された者から、主として個別学力検査と面接にもとづいて、自己申告書、調査書の内容、高等学校などでの活動・経験などを加味して学生を選抜します。個別学力検査では、英語を含めた資料読解力・理解力にもとづいた資料小論文方式を実施します。学校推薦型選抜(公募)では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・表現力に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜(指定校)

人間関係学科社会学専攻への入学を強く希望し、社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有していると高等学校長などから推薦された者から、主として面接に基づいて、志望理由書、調査書の内容、高等学校などでの活動・経験などを加味して、学生を選抜します。

学校推薦型選抜(指定校)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜(附属校)

【専願】

志望理由書にもとづいて人間関係学科社会学専攻で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。学校推薦型選抜(附属校・専願)では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて人間関係学科社会学専攻で学修することの意義を

理解し、学習意欲があることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜(附属校・併願)では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8) 社会人選抜

社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有している学生を、個別学力検査にもとづいて、面接、自己申告書、調査書の内容、社会人としての活動・経験などを加味して選抜します。個別学力検査では、英語を含めた資料読解力・理解力にもとづいた資料小論文方式を実施します。

(9) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(10) 外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(11) 編入学試験・学士入学試験

個別学力検査によって、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに面接によって主体性等を評価した上で、個別学力検査結果及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

3.人間関係学科社会学専攻の教育を通じて養う能力

人間関係学科社会学専攻の教育を通じて養う能力は、以下のような能力です。

(1) 社会学の知識にもとづく視角・方法・理論の成り立ちと現代的展開を自ら学び考えることによって、実社会における現象や問題・課題について、社会的に理解・分析し、自身の考えを表現できる能力。

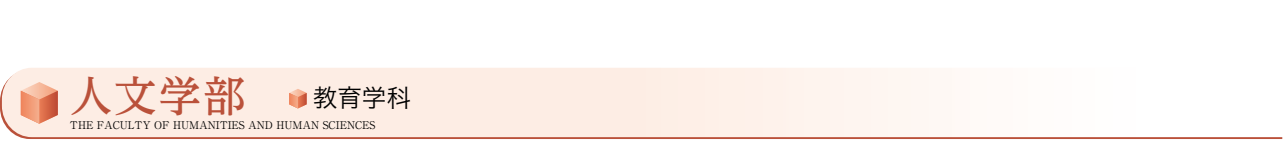
(2) 修得した社会的知識に基づく視角・方法・理論をもって、自ら社会的な課題を発見し、社会問題の解決に取り組み、その成果を社会的に表現するために必要な社会的思考力・判断力・コミュニケーション能力。

(3) 激しく変動していく現代社会において、自ら身につけた社会的知識を多様な科学や学問に照らしつつ、主体性を持って多様な人々と学びあう能力。

(4) 英語、および英語圏の文化の諸相に関する知識と、国際化を進める社会で活躍できる的確なコミュニケーション能力を身につけ、自らの課題とテーマを主体性をもって学問的に追求する能力。

(別表)人間関係学科社会学専攻 各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法（◎は重点評価項目）

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜(前期日程)	◎	・個別学力検査 ・英語資格・検定(前期C日程のみ) ・調査書	◎	・個別学力検査		
	一般選抜(後期日程)	◎	・個別学力検査 ・調査書	◎	・個別学力検査	○	・調査書
	共通テスト利用選抜(前期日程・後期日程)	◎	・共通テストの成績 ・調査書	◎	・共通テストの成績		
	一般・共通テスト併用選抜	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 ・調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績		
総合型選抜	総合型選抜	○	・課題小論文 ・調査書	◎	・課題小論文 ・面接 ・自己申告書	◎	・面接 ・自己申告書
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜(公募)	◎	・小論文 ・推薦書 ・調査書	○	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・自己申告書	◎	・面接 ・推薦書 ・自己申告書
	学校推薦型選抜(指定校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(附属校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書



1.求める学生像

教育学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。教育学とは、ある社会・文化における人間の生成・発達と学習の過程に意図的に働きかける教育という営みを対象とする学問です。そのため、教育学を学ぶ学生には、多様な視点やアプローチによって教育という営みについて考察し、教育のありうる姿を構想・具体化する力を身につけることが必要です。

教育学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

教育学の専門分野を学ぶために必要な高等学校までの基礎的・基本的な知識・技能を習得し、観察・実験をし、その結果をもとにレポートを作成したり、文章や資料を読んだ上で、知識や経験に照らして自分の考えをまとめたりするなど、それぞれの教科の知識・技能を活用できる力を身につけている人。

(2) 思考力・判断力・表現力

教育学的な視点で自ら問題を発見し、課題解決のため教科等を横断した探究活動ができる力を身につけている人。情報を多面的・多角的に精査し構造化することを通して、自分の考えを形成し、様々な方法で表現できる力を身につけている人。

(3) 主体性等

学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる態度が身についている人。多様性を尊重する態度や互いの良さを生かして協働する力が身についている人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、国語については、高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り基礎学力の向上に努めてください。基礎学力は、大学での授業や演習で文

献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。自分の興味関心を広げるために、様々な本を読むこともおすすめします。

また、自ら問題を発見し、様々な情報を活用しながら、問題を解決し、それを発信できる言語能力を高めてください。

2.入学試験制度と評価

教育学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期C日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜(前期日程)の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

(4) 学校推薦型選抜(公募)

資料小論文では読解、要約、分析、論述の学力を多面的・総合的に評価します。さらに、志望理由書にもとづいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。その上で、面接にもとづいて主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。資料小論文の結果及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜(指定校)

志望理由書にもとづいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認し、面接にもとづいて主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。学校推薦型選抜(指定校)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜(附属校)

【専願】
志望理由書にもとづいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認し、面接にもとづいて主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。学校推薦型選抜(附属校・専願)では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】
志望理由書にもとづいて教育学科で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認し、面接にもとづいて主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。

学校推薦型選抜(附属校・併願)では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(8) 社会人選抜

資料小論文では読解、要約、分析、論述の学力を多面的・総合的に評価します。さらに、志望理由書にもとづいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。その上で、面接にもとづいて主

体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。資料小論文の結果及び出願書類にもとづき行う面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(9) 編入学試験・学士入学試験

英語に関する個別学力検査と小論文によって、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに面接によって主体性、入学後の学びの見通し、進路との繋がり、言語運用能力を評価します。個別学力検査と小論文及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

3. 教育学科の教育を通じて養う能力

教育学の学修方法は、「教えるー学ぶ」に関連する理論と実践について、言語、身体、感覚のすべてを視野に含みつつ、考察を行うことを基盤としています。その学修方法を通して、多様な視点やアプローチによって教育という営みについて考察し、教育のありうる姿を構想・具体化する能力を身につけます。

(別表)教育学科 各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法 (◎は重点評価項目)

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜(前期日程)	◎	・個別学力検査 ・英語資格・検定(前期C日程のみ) ・調査書	◎	・個別学力検査		
	一般選抜(後期日程)	◎	・個別学力検査 ・調査書	◎	・個別学力検査	○	・調査書
	共通テスト利用選抜(前期日程・後期日程)	◎	・共通テストの成績 ・調査書	◎	・共通テストの成績		
	一般・共通テスト併用選抜	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 ・調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績		
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜(公募)	◎	・小論文 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書	◎	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(指定校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(附属校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書

1. 求める学生像

英語英文学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。具体的には、言語や文化、とりわけ英語や英語圏の文化に強い関心と探究心があり、英語習得に必要な不可欠な努力を惜みず、英語で他者と積極的に交流し、多様な価値観を持つ他者とともに問題の解決に当たる協創性を備えていることを重視します。英語英文学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における英語・国語の教科に関する知識・技能を有する人。すなわち、英語圏の文学や英語学・応用言語学の文献読解、さらにこれをふまえた論述や口頭でのコミュニケーションを行うための基礎となる英語の音声・語彙・文法の知識及び「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能に加え、伝達の内容に関して論理的に思考・判断・表現する際に基礎となる日本語能力を有する人。

(2) 思考力・判断力・表現力

言語や文化に関わる問題に気づく観察力、その問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって説得的に示す表現力、及びこの問題解決プロセスに主体性をもって取り組む態度を有する人。

(3) 主体性等

多様な価値観を持つ他者に対する包容力を備え、主体性を持って共感的な人間関係を創造しながら、同時に自らの意図を明確に表明して相互理解を図る能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。

特に、英語については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り英語力の向上に努めてください。国語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、自分の興味関心を広げるために、様々な本を読むこともおすすめします。

最も基本的なことを具体的にあげれば、すべての科目で自ら進んでノートを取ること、授業中挙手して大きな声で発言することです。英語学習に関しては、英文法を一通り学習すること、正しい発音で大きな声で音読すること、英検等各種検定試験に積極的に挑戦することです。これらのことは「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性」等の育成に役立ちます。

2. 入学試験制度と評価

英語英文学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期C日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜(前期日

程)の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

志望理由書にもとづいて英語英文学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、英語力試験にもとづいて基礎となる英語能力を評価します。さらに、面接にもとづいて、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性等」を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜(指定校)

志望理由書にもとづいて英語英文学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。学校推薦型選抜(指定校)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜(附属校)

志望理由書にもとづいて英語英文学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。学校推薦型選抜(附属校)では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(8) 外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(9) 編入学試験・学士入学試験

英語に関する個別学力検査によって、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに面接によって主体性等を評価した上で、個別学力検査結果及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

3. 英語英文学科の教育を通じて養う能力

言語としての英語、および英語圏の文化の諸相に関する知識と、国際化を進める社会で活躍できる的確なコミュニケーション能力を身につけ、自らの課題とテーマを学問的に追求し、主体性をもって協創する能力を身につけます。

(別表)英語英文学科 各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法 (◎は重点評価項目)

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜(前期日程)	◎	・個別学力検査 ・英語資格・検定 (前期C日程のみ) ・調査書	◎	・個別学力検査		
	一般選抜(後期日程)	◎	・個別学力検査 ・調査書	◎	・個別学力検査	○	・調査書
	共通テスト利用選抜 (前期日程・後期日程)	◎	・共通テストの成績 ・調査書	◎	・共通テストの成績		
	一般・共通テスト併用選抜	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 ・調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績		
総合型選抜	総合型選抜	◎	・英語力試験 ・面接 ・調査書 ・活動報告書	◎	・英語力試験 ・面接 ・志望理由書 ・活動報告書	○	・面接 ・志望理由書 ・活動報告書
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜(指定校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(附属校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書

法学部 THE FACULTY OF LAW ● 法律学科

1. 求める学生像

法学部法律学科が求める学生像は以下のとおりです。

まず、広島修道大学の「道を修める」という建学精神、「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材の養成」という教育理念を理解することができる学生であることです。次に、法学部法律学科の教育目標に対応できる基礎的な学習能力を備え、かつ、将来法律専門家・公務員・企業人など、自己の進路について明確な目標を持つよう模索し続ける学生であることです。具体的には、以下の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する学生を求めます。

(1) 知識・技能

まず、国語の基礎学力を有する学生を求めます。法律学科で法解釈の素養を身につけるためには、正確に文章を読み解き、論理的に考えることがとりわけ重要です。次に、理数系科目の基礎学力を有する学生を求めます。法学に必要な論理的思考力は数学などの理数系科目の学習によって培われると考えられています。また、グローバル化した社会の中で法的素養を身につけるには、諸外国の法制度にも関心を持たなければなりません。そのため、高等学校における英語の教科に関する知識・技能を有する学生を求めます。さらに、今日の法制度を学ぶにあたって、歴史的な経緯を理解することも重要であるため、日本史・世界史の知識を有することも必要です。

(2) 思考力・判断力・表現力

公正な社会の実現に努める意欲を持っており、様々な社会の諸現象や諸問題に強い関心があり、自ら調査し、事態の背景や推移を正確に理解し、問題解決に必要な情報を収集・蓄積することのできる学生、先入観や偏見にとらわれず、多様な考え方や価値観を学習・理解するとともに、多数の解決法を比較・選択したうえで、自分の意見を決定することのできる学生、文章や議論の中で自分の意見を積極的にかつ説得力をもって表現することのできる学生を求めます。

(3) 主体性等

法律専門家・公務員・企業人など、将来の進路について明確な目標を持つよう模索し、主体的に学ぶことのできる学生、多様な立場や価値観を尊重し、他者の意見や価値観の相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション

能力を有する学生を求めます。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

法律の学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって法学部法律学科への入学を希望する学生は、高等学校における科目の教科書レベルの知識を幅広くしっかりと習得していることが大切です。特に国語や数学、英語、歴史などの科目をしっかり学んでください。また、新聞や様々な本を読むことにより、社会科学に関する幅広い知識を習得できるため、新聞や様々な本を読むことを強くおすすめします。

2. 入学試験制度と評価

法学部法律学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期C日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」に重点を置いて評価・判定します。

(3) 総合型選抜

本学への入学を強く希望し、高等学校等における正課活動および課外活動に積極的に取り組み、本学法学部法律学科で学ぶことの意義について明確な興味・関心を持った者を選抜します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、「思考力・判断力・表現力」、「主体性

等」に重点を置き、特定の課題に関するゼミナール(ゼミナール方式の場合)・社会問題について的小論文(スポーツ実績方式、芸術・文化実績方式の場合)、面接(スポーツ実績方式、芸術・文化実績方式の場合)、活動報告書(スポーツ実績方式、芸術・文化実績方式の場合)、出身学校調査書(一定の評定平均値を満たす必要があります)、志望理由書等をもとにして、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

(4) 学校推薦型選抜(公募)

本学への入学を強く希望し、学校長から推薦され、高等学校等における正課活動および課外活動に積極的に取り組み、本学法学部法律学科で学ぶことの意義について明確な興味・関心を持った者を選抜します。

学校推薦型選抜(公募)では、学力の3要素のうち、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」に重点を置き、英語試験(英語方式)・資料小論文試験(小論文方式)、面接、出身学校長の推薦書、出身学校調査書(一定の評定平均値を満たす必要があります)、志望理由書等をもとにして、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜(指定校)

本学への入学を強く希望し、学校長から推薦され、高等学校等における正課活動および課外活動に積極的に取り組み、本学法学部法律学科で学ぶことの意義について明確な興味・関心を持った者を選抜します。

学校推薦型選抜(指定校)では、学力の3要素全てを同じ比重で、社会問題について的小論文及び社会問題に関する3分間説明、面接、出身学校長の推薦書、出身学校調査書(一定の評定平均値を満たす必要があります)、志望理由書等をもとにして、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜(附属校)

本学への入学を強く希望し、学校長から推薦され、高等学校における正課活動および課外活動に積極的に取り組み、本学法学部法律学科で学ぶことの意義について明確な興味・関心を持った者を選抜します。

学校推薦型選抜(附属校)では、学力の3要素全てを同等の比重で、面接、出身学校長の推薦書、出身学校調査書(一定の評定平均値を満たす必要があります)、志望理由書等をもとにして、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜(ゼミナール方式)と同じ方式で実施します。

(8) 外国人留学生選抜

主に入学後の学修に必要な基礎学力を有している者を選抜します。選抜においては、資料小論文試験、日本留学試験のスコア、面接、出願書類等をもとにして、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

(9) 編入学試験・学士入学試験

第3学年次に編入するために必要な基礎学力を有している者を選抜します。選抜においては、英語試験・資料小論文試験、面接、成績証明書、志望理由書等をもとにして、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

3. 法律学科の教育を通じて養う能力

法律学科の教育目標を実現するために必要な法的知識と技能を修得し、法的課題の発見および解決に積極的に取り組み、その成果を表現するために必要な法的思考力・判断力・表現力等の能力を持ち、多様な人々と協創して学びあう能力を養います。

(別表)法律学科 各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法 (◎は重点評価項目)

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜(前期日程)	◎	・個別学力検査 ・英語資格・検定 (前期C日程のみ) ・調査書	◎	・個別学力検査		
	一般選抜(後期日程)	◎	・個別学力検査 ・調査書	◎	・個別学力検査	○	・調査書
	共通テスト利用選抜 (前期日程・後期日程)	◎	・共通テストの成績 ・調査書	◎	・共通テストの成績		
総合型選抜	総合型選抜 (ゼミナール方式)	○	・ゼミナール ・調査書 ・ゼミナール報告要旨	◎	・ゼミナール ・志望理由書 ・ゼミナール報告要旨	◎	・ゼミナール ・調査書 ・志望理由書 ・ゼミナール報告要旨
	総合型選抜 (スポーツ実績方式) (芸術・文化実績方式)	○	・社会問題について的小論文 ・面接 ・調査書	◎	・社会問題について的小論文 ・面接 ・活動報告書 ・志望理由書	◎	・社会問題について的小論文 ・面接 ・活動報告書 ・調査書 ・志望理由書
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜(公募) (英語方式)	◎	・英語 ・面接 ・推薦書 ・調査書	◎	・英語 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(公募) (小論文方式)	◎	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・調査書	◎	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(指定校)	○	・社会問題について的小論文 ・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・社会問題について的小論文 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・社会問題について的小論文 ・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(附属校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書

経済科学部

THE FACULTY OF ECONOMIC SCIENCES

1.求める学生像

経済科学部では、経済社会・情報社会に強い関心を持ち、これまでの学修経験を通じて、次の基礎能力を有する人を求めます。物事を論理的に考察できる人、物事を科学的に考察できる人、学修に真摯かつ熱心に取り組むことのできる人、明朗快活にコミュニケーションをとることができる人。

2.入学試験制度と評価

経済科学部は、上記の基礎能力や資質を確かめるために、入学試験制度ごとに「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協創

経済科学部

THE FACULTY OF ECONOMIC SCIENCES

● 現代経済学科

1.求める学生像

現代経済学科は、学士課程教育を受ける際に必要とされる基礎学力および主体性等を備えた人を、様々な入学試験制度によって選抜し、受け入れます。現代経済学科が求める学生像は、経済社会・経済問題・経済現象等に強い関心を持ち、これまでの学修経験を通じて、以下の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における英語・国語・数学の初等的な知識・技能は修得していること。すなわち、現代経済学の講義を受ける際に最低限必要とされる基礎学力を有し、真摯に受講すれば講義内容を十分に理解できる能力を有する人。

(2) 思考力・判断力・表現力

経済問題や経済現象に対し、論理的かつ科学的に思考・判断する能力を有し、さらに考察結果を明快に表現する能力を有する人。

(3) 主体性等

経済問題や経済現象に常に関心を持ち、主体的・能動的に学修に取り組むと同時に、学修過程において多種多様な他者と明朗快活にコミュニケーションをとる能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

文科系・理科系を問わず、あるいは商業・工業・総合等の学科を問わず、高校低学年次における英国数の必須科目は確実に学修しておください。その基礎学力と真摯な学修姿勢があれば、現代経済学科の大半の講義は修得できます。

2.入学試験制度と評価

現代経済学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期C日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期中

して学ぶ態度」を多面的・総合的に評価します。評価の比重および評価方法は、各学科のアドミッション・ポリシーで明示します。

3.経済科学部の教育を通じて養う能力

経済科学部の入学者には、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるところの知識・技能、思考力・判断力・表現力、多様な人々と協創する姿勢を涵養し、「現代の経済社会・情報社会に求められる高度な知識と技術を有する人材」として養成します。

経済科学部

● 経済情報学科

経済科学部

経済科学部

（）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

講義理解力試験で現代経済学を学ぶ際に必要な「思考力・判断力・表現力」を評価します。また、面接・出願書類にもとづいて、現代経済学科入学を強く希望しているか、学修のみならず万事に真摯かつ熱心であるかなど、「主体性等」を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力および主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜（公募）

現代経済学科入学を強く希望し学校長が推薦する学修意欲の高い生徒を、一定の評定平均値を条件に、英語方式・小論文方式・指定資格方式・英語資格方式で選抜します。

英語方式・小論文方式では個別学力検査で知識・技能、思考力・判断力・表現力を評価し、面接・出願書類で主体性等を評価し、調査書も加味して多面的・総合的に評価・判定します。指定資格方式・英語資格方式では面接・出願書類で知識・技能、主体性等を評価し、調査書で思考力・判断力・表現力を確認して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜（指定校）

修学実績をともなう高校等を対象に、現代経済学科入学を強く希望し学校長が推薦する生徒を、一定の評定平均値を条件に選抜します。志望理由書等にもとづいて現代経済学科入学を強く希望していることを確認し、面接で特に主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素のうち、主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能および思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

附属高校を対象に、現代経済学科入学を強く希望し学校長が推薦する生徒を、一定の評定平均値を条件に選抜します。志望理由書等にもとづいて現代経済学科入学を強く希望していることを確認し、面接で特に主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素のうち、主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能および思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

附属高校を対象に、現代経済学科入学を希望し学校長が推薦する生徒を、一定の評定平均値を条件に選抜します。志望理由書等にもとづいて現代経済学科で学修することの意義を理解し学習意欲があることを確認し、面接で

特に主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素のうち、主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能および思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(9) 外国人留学生選抜

小論文によって知識・技能および思考力・判断力・表現力を評価し、日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接と出願書類によって、主体性等も加味して多面的・総合的に評価・判定します。

経済科学部

THE FACULTY OF ECONOMIC SCIENCES

● 経済情報学科

1.求める学生像

経済情報学科は、学士課程教育を受ける際に必要とされる基礎学力および主体性等を備えた人を、様々な入学試験制度によって選抜し、受け入れます。経済情報学科が求める学生像は、情報社会・情報科学・システム科学等に強い関心を持ち、これまでの学修経験を通じて、以下の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における英語・国語・数学の初等的な知識・技能は修得していること。すなわち、経済情報学の講義を受ける際に最低限必要とされる基礎学力を有し、真摯に受講すれば講義内容を十分に理解できる能力を有する人。

(2) 思考力・判断力・表現力

情報科学やシステム科学の学修に際し、論理的かつ科学的に思考・判断する能力を有し、さらに考察結果を明快に表現する能力を有する人。

(3) 主体性等

情報科学やシステム科学に常に関心を持ち、主体的・能動的に学修に取り組むと同時に、学修過程において多種多様な他者と明朗快活にコミュニケーションをとる能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

文科系・理科系を問わず、あるいは商業・工業・総合等の学科を問わず、高校低学年次における英国数の必須科目は確実に学修しておください。その基礎学力と真摯な学修姿勢があれば、経済情報学科の大半の講義は修得できます。

2.入学試験制度と評価

経済情報学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期C日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜（前期中）の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

(4) 編入学試験・学士入学試験

個別学力検査によって、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能および思考力・判断力・表現力を評価します。さらに面接と出願書類によって、主体性等も加味して多面的・総合的に評価・判定します。

3.現代経済学科の教育を通じて養う能力

現代経済学科の入学者には、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じ、ディプロマ・ポリシーに定めるところの知識・技能、思考力・判断力・表現力、多様な人々と協創する姿勢を涵養し、「現代の経済社会を体系的に把握かつ科学的に分析する能力を有する人材」として養成します。

経済科学部

● 経済情報学科

経済科学部

一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

講義理解力試験で経済情報学を学ぶ際に必要な「思考力・判断力・表現力」を評価します。また、面接・出願書類にもとづいて、経済情報学科入学を強く希望しているか、学修のみならず万事に真摯かつ熱心であるかなど、「主体性等」を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力および主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜（公募）

経済情報学科入学を強く希望し学校長が推薦する学修意欲の高い生徒を、一定の評定平均値を条件に、英語方式・小論文方式・指定資格方式・英語資格方式で選抜します。英語方式・小論文方式では個別学力検査で知識・技能、思考力・判断力・表現力を評価し、面接・出願書類で主体性等を評価し、調査書も加味して多面的・総合的に評価・判定します。指定資格方式・英語資格方式では面接・出願書類で知識・技能、主体性等を評価し、調査書で思考力・判断力・表現力を確認して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜（指定校）

修学実績をともなう高校等を対象に、経済情報学科入学を強く希望し学校長が推薦する生徒を、一定の評定平均値を条件に選抜します。志望理由書等にもとづいて経済情報学科入学を強く希望していることを確認し、面接で特に主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素のうち、主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能および思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

附属高校を対象に、経済情報学科入学を強く希望し学校長が推薦する生徒を、一定の評定平均値を条件に選抜します。志望理由書等にもとづいて経済情報学科入学を強く希望していることを確認し、面接で特に主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素のうち、主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能および思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

附属高校を対象に、経済情報学科入学を希望し学校長が推薦する生徒を、一定の評定平均値を条件に選抜します。志望理由書等にもとづいて経済情報学科で学修することの意義を理解し学習意欲があることを確認し、面接で特に主体性等を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素のうち、主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能および思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(9) 外国人留学生選抜

小論文によって知識・技能および思考力・判断力・表現力を評価し、日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接と出願書類によって、主体性等も加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(10) 編入学試験・学士入学試験

個別学力検査によって、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能および思考力・判断力・表現力を評価します。さらに面接と出願書類によって、主体性等も加味して多面的・総合的に評価・判定します。

3. 経済情報学科の教育を通じて養う能力

経済情報学科の入学者には、カリキュラム・ポリシーにもとづく教育課程を通じて、ディプロマ・ポリシーに定めるところの知識・技能、思考力・判断力・表現力、多様な人々と協創する姿勢を涵養し、「経済社会の発展に貢献しうる情報処理能力および論理的思考力を有する人材」として養成します。

(別表) 現代経済学科・経済情報学科 共通各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法 (◎は重点評価項目)

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜(前期日程)	◎	・個別学力検査 ・英語資格・検定(前期C日程のみ) ・調査書	◎	・個別学力検査		
	一般選抜(後期日程)	◎	・個別学力検査 ・調査書	◎	・個別学力検査	○	・調査書
	共通テスト利用選抜(前期日程・後期日程)	◎	・共通テストの成績 ・調査書	◎	・共通テストの成績		
	一般・共通テスト併用選抜	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 ・調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績		
総合型選抜	総合型選抜	○	・講義理解力試験 ・調査書	◎	・講義理解力試験 ・面接 ・志望理由書 ・活動報告書	◎	・面接 ・志望理由書 ・活動報告書
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜(公募)(英語方式)	◎	・英語 ・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書	◎	・英語 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書	◎	・面接 ・推薦書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(公募)(小論文方式)	◎	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書	◎	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書	◎	・面接 ・推薦書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(公募)(指定資格方式)	◎	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・資格・検定等申請書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	◎	・面接 ・推薦書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(公募)(英語資格方式)	◎	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・資格・検定等申請書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	◎	・面接 ・推薦書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(指定校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	◎	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(附属校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	◎	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書

1. 求める学生像

人間環境学科は、学士課程教育を受けるのに必要な基礎学力を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。具体的には、環境問題に広く関心を持ち、その解決に向けて主体的に学習・行動し、持続可能な社会の構築に資する意欲を持つ人材を広く国内外から受け入れます。人間環境学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

- ・高等学校で学習する教科についての基礎的な知識を身につけている人
- ・高等学校等で学習する環境問題についての基礎的な知識を身につけている人
- ・基礎的な知識を伝達するために、外国語を含む基本的な言語運用能力を身につけている人

(2) 思考力・判断力・表現力

- ・環境問題についての基礎的な知識にもとづいて、理論的・体系的に考えることができる人
- ・環境問題についての基礎的な知識にもとづいて、問題解決に必要な情報を選択し、解決の方向性について自分の考えを持つことができる人
- ・外国語を含む基本的な言語運用能力を用いて、自分の考えを論理的にわかりやすく表現することができる人

(3) 主体性等

- ・地域社会から地球全体に至る様々な環境問題を自分自身の問題としてとらえ、問題解決のために学ぶ意欲・関心・態度を持つ人
- ・持続可能な社会を構築するために、様々な活動に積極的に参加する意欲を持つ人
- ・持続可能な社会を構築するために、多様な人々と対話し協働して活動することができる人

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

- ・環境問題に関連する文系・理系の枠組みを超えた専門分野を学ぶために、高等学校で学習する幅広い教科の教科書レベルの知識を身につけておくこと
- ・書籍や新聞等を読んで、環境問題をはじめとする国内外の問題について幅広い知識を身につける努力をしておくこと
- ・国内外の環境問題について普段から関心を持ち、自分の考えを表現できるようになっておくこと

2. 入学試験制度と評価

人間環境学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期C日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を得点化して、個別学力検査の得点に加したうえで合否判定します。一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜(前期日程)の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

本学への入学を強く希望し、高等学校等での正課・課外活動に積極的に取り組み、本学科で学ぶことの意義をしっかりと理解している人を選抜します。選抜の方式には、総合型選抜(レポート方式)、総合型選抜(プレゼンテーション方式)、総合型選抜(活動実績方式)があります。

総合型選抜(レポート方式)では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、テーマに関するレポート、レポートに関する質疑応答審査、テーマに関連する知識を問う筆記試験、志望理由書、調査書(高等学校での評定平均値を満たす必要があります)によって多面的・総合的に評価します。総合型選抜(レポート方式)では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

総合型選抜(プレゼンテーション方式)では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、テーマに関するプレゼンテーション審査、テーマに関連する知識を問う筆記試験、志望理由書、調査書(高等学校での評定平均値を満たす必要があります)によって多面的・総合的に評価します。総合型選抜(プレゼンテーション方式)では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置いて評価・判定します。

総合型選抜(活動実績方式)では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、高等学校等での活動実績、小論文、面接、志望理由書、調査書(高等学校での評定平均値を満たす必要があります)によって多面的・総合的に評価します。総合型選抜(活動実績方式)では、学力の3要素すべてを同等の比重で評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜(公募)

【専願】

本学への入学を強く希望し、学校長から推薦され、本学科で学ぶことの意義をしっかりと理解している人を選抜します。選抜の方式には、学校推薦型選抜(公募)(英語方式・専願)があります。

学校推薦型選抜(公募)(英語方式・専願)では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、英語の個別学力検査、面接、志望理由書、推薦書、調査書(高等学校での評定平均値を満たす必要があります)によって多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜(公募)(英語方式・専願)では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

【併願】

本学での学修に意欲を持ち、学校長から推薦され、本学科で学ぶことの意義をしっかりと理解している人を選抜します。選抜の方式には、学校推薦型選抜(公募)(英語資格方式・併願)、学校推薦型選抜(公募)(数学資格方式・併願)があります。

学校推薦型選抜(公募)(英語資格方式・併願)では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、英語の資格・検定、面接、志望理由書、推薦書、調査書(高等学校での評定平均値を満たす必要があります)によって多面的・総合的に評価します。学校推薦型選抜(公募)(英語資格方式・併願)では、学力の3要素のうち、知識・技能に重点を置いて評価・判定します。学校推薦型選抜(公募)(数学資格方式・併願)では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、数学の資格・検定、面接、志望理由書、推薦書、調査書(高等学校での評定平均値を満たす必要があります)によって多面的・総合的に評価します。学校推薦型選抜(公募)(数学資格方式・併願)では、学力の3要素のうち、知識・技能に重点を置いて評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜(指定校)

本学への入学を強く希望し、学校長から推薦され、高等学校等での正課・課外活動に積極的に取り組み、本学科で学ぶことの意義をしっかりと理解している人を選抜します。入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、面接、志望理由書、推薦書、調査書(高等学校での評定平均値を満たす必要があります)によって多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜(指定校)では、学力の3要素すべてを同等の比重で評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜(附属校)

【専願】

本学への入学を強く希望し、附属校の学校長から推薦され、高等学校等での正課・課外活動に積極的に取り組み、本学科で学ぶことの意義をしっかりと理解している人を選抜します。入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、面接・志望理由書、推薦書、調査書(高等学校での評定平均値を満たす必要があります)によって多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜(附属校・専願)では、学力の3要素すべてを同等の比重で評価・判定します。

【併願】

本学での学修に意欲を持ち、附属校の学校長から推薦され、高等学校等での正課・課外活動に積極的に取り組み、本学科で学ぶことの意義をしっかりと理解している人を選抜します。入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、面接・志望理由書、推薦書、調査書(高等学校での評定平均値を満たす必要があります)によって多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜(附属校・併願)では、学力の3要素すべてを同等の比重で評価・判定します。

(8) 社会人選抜

入学後に必要な基礎学力を有する者を選抜するために、小論文、面接、志望理由書、調査書、その他の出願書類によって多面的・総合的に評価します。社会人選抜では、学力の3要素すべてを同等の比重で評価・判定します。

(9) 帰国生選抜

【専願】

入学後に必要な基礎学力を有する者を選抜するために、総合型選抜と同じ方式で多面的・総合的に評価・判定します。ただし、総合型選抜における調査書の代わりとなる出願書類の提出を求めます。

【併願】

入学後に必要な基礎学力を有する者を選抜するために、小論文、日本留学試験(日本語)の成績、面接、志望理由書、その他の出願書類によって多面的・総合的に評価します。

外国人留學生選抜では、学力の3要素すべてを同等の比重で評価・判定します。

(1) 編入学試験・学士入学試験

第3学年次に修学するために必要な学力を有する者を選抜するために、英語の個別学力検査、小論文、面接、志望理由書、その他の出願書類によって多面的・総合的に評価します。

編入学試験・学士入学試験では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 総合型選抜(推薦型)

社会・文化・経済・政治・法律・自然等、多様な領域に関連させながら、環境問題を総合的に把握・分析するための知識と理解力を身につけ、環境問題を解決するための思考力や判断力を獲得します。その上で、多様な人々と協働・協創し、その実現に向けて主体的に行動する能力を身につけます。

(別表) 人間環境学科 各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法 (◎は重点評価項目)

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜(前期日程)	◎	・個別学力検査 ・英語資格・検定(前期C日程のみ) ・調査書	◎	・個別学力検査		
	一般選抜(後期日程)	◎	・個別学力検査 ・調査書	◎	・個別学力検査	○	・調査書
	共通テスト利用選抜(前期日程・後期日程)	◎	・共通テストの成績 ・調査書	◎	・共通テストの成績		
	一般・共通テスト併用選抜	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 ・調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績		
総合型選抜	総合型選抜(レポート方式)	◎	・レポートのテーマに関する筆記試験 ・レポートに関する質疑応答審査 ・調査書 ・レポート	◎	・レポートのテーマに関する筆記試験 ・レポートに関する質疑応答審査 ・志望理由書 ・レポート	○	・レポートに関する質疑応答審査 ・調査書 ・志望理由書
	総合型選抜(プレゼンテーション方式)	○	・プレゼンテーションのテーマに関する筆記試験 ・プレゼンテーション審査 ・調査書 ・プレゼンテーション資料	◎	・プレゼンテーションのテーマに関する筆記試験 ・プレゼンテーション審査 ・志望理由書 ・プレゼンテーション資料	◎	・プレゼンテーション審査 ・調査書 ・志望理由書
	総合型選抜(活動実績方式)	○	・小論文 ・面接 ・調査書 ・活動実績	○	・小論文 ・面接 ・活動実績 ・志望理由書	○	・小論文 ・面接 ・調査書 ・活動実績 ・志望理由書
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜(公募)(英語方式)	◎	・英語 ・面接 ・推薦書 ・調査書	◎	・英語 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(公募)(英語資格方式)	◎	・推薦書 ・調査書 ・英語資格・検定	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(公募)(数学資格方式)	◎	・推薦書 ・調査書 ・数学資格・検定	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(指定校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(附属校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書

健康科学部

THE FACULTY OF HEALTH SCIENCES

1. 求める学生像

健康科学部では、学力の3要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性)を持って多様な人々と協働・協創して学ぶ態度)に加え、人間の「こころ」と「からだ」の仕組みと働きに関して、飽えざる興味を持った人を求めます。すなわち、学士課程教育を受けるために必要な基礎知識・技能と共に、入学後の学修において必要な、思考の柔軟性、創造力、主体性を持った問題発見能力・問題解決能力、及び倫理性を持ち、多様な価値観を持つ他者と協働・協創して真摯に学ぶことができる人を求めます。

(1) 知識・技能

高等学校における主要教科に関する基礎的な知識・技能を有する人。すなわち、日本語や英語で書かれた文献を読解し、論述や口頭でのコミュニケーションを行うための基礎的な国語力や英語力、社会の動向に関心を持ち、図表や資料を読み取ったり、図表を用いて表現したりするための数学や理科、社会に関する基礎的な知識・技能を有する人。

(2) 思考力・判断力・表現力

「こころの健康」に強い関心と探究心を持って学ぶことができる人を求めます。心理学部が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における主要教科に関する基礎的な知識・技能を有する人。すなわち、日本語や英語で書かれた文献を読解し、論述や口頭でのコミュニケーションを行うための基礎的な国語力や英語力、社会の動向に関心を持ち、図表や資料を読み取ったり、図表を用いて表現したりするための数学や理科、社会に関する基礎的な知識・技能を有する人。

(2) 思考力・判断力・表現力

「こころの健康」に強い関心を持ち、地域や社会における日常の身近な問題に気づく観察力、その問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し、自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって説得的に示す表現力、及びこの問題解決プロセスに主体性を持って取り組む態度を有する人。

(3) 主体性等

自らの考えや意見を明確に表現するとともに、多様な価値観を持つ他者の考えや意見も尊重し、互いに理解し合う共感的な人間関係を築きながら、積極的に他者と協働・協創する力を有する人。

(4) 総合型選抜

志望理由書にもとづいて心理学部で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認します。その上で、集団活動試験及び集団討論にもとづいて、問題解決のための柔軟な思考力・情報収集力、問題解決の成果を分析する能力と判断力、分析結果を論理的な文章と適切な図表とによって説得的に示す表現力、及びこの問題解決プロセスに主体性を持って他者と共に取り組む協働・協創力等を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜(公募)

志望理由書にもとづいて心理学部で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認します。その上で、小論文形式による個別学力検査にもとづいて、知識・技能、身の周りの日常的な問題に気づく観察力や思考力、問題解決の成果を分析する能力と判断力、及び分析結果を論理的な文章によって説得的に示す表現力を評価します。さらに、集団面接、志望理由書、及び推薦書等によって、高等学校等での正課・課外活動への主体性を持った取り組み、及び多様な価値観を持つ他者に対する包容力と協働・協創力等を評価します。

学校推薦型選抜(公募)では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、推薦書等にもとづく主体性等の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜(指定校)

志望理由書にもとづいて心理学部で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び協働・協創力等を評価します。学校推薦型選抜(指定校)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 帰国生選抜

社会・文化・経済・政治・法律・自然等、多様な領域に関連させながら、環境問題を総合的に把握・分析するための知識と理解力を身につけ、環境問題を解決するための思考力や判断力を獲得します。その上で、多様な人々と協働・協創し、その実現に向けて主体的に行動する能力を身につけます。

(1) 編入学試験・学士入学試験

第3学年次に修学するために必要な学力を有する者を選抜するために、英語の個別学力検査、小論文、面接、志望理由書、その他の出願書類によって多面的・総合的に評価します。

編入学試験・学士入学試験では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 総合型選抜(推薦型)

社会・文化・経済・政治・法律・自然等、多様な領域に関連させながら、環境問題を総合的に把握・分析するための知識と理解力を身につけ、環境問題を解決するための思考力や判断力を獲得します。その上で、多様な人々と協働・協創し、その実現に向けて主体的に行動する能力を身につけます。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(8) 社会人選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(9) 学校推薦型選抜(附属校)

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜(前期日程)の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(1) 編入学試験・学士入学試験

第3学年次に修学するために必要な学力を有する者を選抜するために、英語の個別学力検査、小論文、面接、志望理由書、その他の出願書類によって多面的・総合的に評価します。

編入学試験・学士入学試験では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(10) 外国人留學生選抜

志望理由書にもとづいて心理学部で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認します。その上で、小論文形式による個別学力検査にもとづいて、知識・技能、身の周りの日常的な問題に気づく観察力や思考力、問題解決の成果を分析する能力と判断力、及び分析結果を論理的な文章によって説得的に示す表現力を評価します。さらに、集団面接、志望理由書、及び推薦書等によって、高等学校等での正課・課外活動への主体性を持った取り組み、及び多様な価値観を持つ他者に対する包容力と協働・協創力等を評価します。

学校推薦型選抜(公募)では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、推薦書等にもとづく主体性等の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(11) 学校推薦型選抜(指定校)

志望理由書にもとづいて心理学部で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び協働・協創力等を評価します。学校推薦型選抜(指定校)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜(附属校)

【専願】

志望理由書にもとづいて心理学科で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び協働・協創力等を評価します。面接の結果に重点を置き、志望理由書と推薦書にもとづく知識及び思考力等の評価を加味して多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜(附属校・専願)では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて心理学科で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び協働・協創力等を評価します。面接の結果に重点を置き、志望理由書と推薦書にもとづく知識及び思考力等の評価を加味して多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜(附属校・併願)では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(9) 外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに、志望理由書にもとづいて心理学科で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認した上で、面接によって知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働・協創力、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(10) 編入学試験・学士入学試験

英語、小論文、面接の試験科目を課して、第3年次に入学するために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等を有しているかを多面的・総合的に評価します(2021年度は実施しません)。

3.心理学科の教育を通じて養う能力

心理学科では、人間の「こころ」の心理学的・生理学的な仕組みと働きについて科学的に探究し、「こころの健康」の回復・保持・増進に向けて、他者と協働・協創して、問題の解決に当たることのできる能力を身につけます。

具体的には、心理学の実験や実習、研究法に関する科目を通じて、基礎的な知識・技能、科学的な思考力・判断力・表現力、学修及び協働・協創への主体性を身につけます。これらの基礎的な力を土台として、「こころ」の健康を研究する上での基礎となる人間の行動全般について理解し、ビジネスや生活など社会のさまざまな場面の問題把握と解決に役立つ専門的な知識・技能を身につける心理科学領域科目群、「こころ」の健康を支える社会・組織について心理学の観点から理解し、意識調査やビッグ・データなどを分析して人間の心理・行動特性を見出すための専門的な知識・技能を身につける心理調査領域科目群、「こころ」の健康状態を観察・分析し、その回復・保持・増進を支援するための専門的な知識・技能を身につける心理臨床領域科目群を通じて、基礎から臨床まで特定の領域に偏らず幅広い領域の専門的な知識・技能、思考力・判断力・表現力を修得します。また、公認心理師養成に対応したカリキュラムも整備されており、公認心理師資格の取得を目指す人は、公認心理師に求められる実践的な知識・技能、思考力・判断力・表現力を身につけることもできます。

そして、自らが興味を持った研究テーマについて主体性を持って取り組む卒業論文を通じて、4年間で培った専門的な知識・技能、思考力や判断力、表現力を十分に発揮し、大学での学修の集大成とします。

さらに、公認心理師や臨床心理士などのより高度な専門職業人を目指す人や、4年間の学修をさらに深めより発展的な学修を求める人のために、本学大学院人文科学研究科心理学専攻への進学も積極的にサポートします。

(別表) 心理学科 各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法 (◎は重点評価項目)

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜(前期日程)	◎	・個別学力検査 ・英語資格・検定(前期C日程のみ) ・調査書	◎	・個別学力検査		
	一般選抜(後期日程)	◎	・個別学力検査 ・調査書	◎	・個別学力検査	○	・調査書
	共通テスト利用選抜(前期日程・後期日程)	◎	・共通テストの成績 ・調査書	◎	・共通テストの成績		
	一般・共通テスト併用選抜	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 ・調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績		
総合型選抜	総合型選抜	○	・課題図書に関する筆記試験 ・集団活動試験 ・集団討論 ・調査書	◎	・課題図書に関する筆記試験 ・集団活動試験 ・集団討論 ・志望理由書	◎	・集団活動試験 ・集団討論 ・志望理由書
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜(公募)	◎	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書	◎	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(指定校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(附属校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書

1.求める学生像

健康栄養学科では、学士課程教育を受けるために必要な基礎知識及び技能を備え、入学後の学修において必要な柔軟な思考力、創造力、主体性を持った問題発見能力・問題解決能力、及び倫理性を持ち、多様な価値観を持つ他者と協働・協創して「人の健康と栄養」に強い関心と探究心を持って学ぶことができる人を求めます。健康栄養学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における主要教科に関する基本的な知識・技能を有する人。すなわち、日本語や英語で書かれた文献を読解し、論述や口頭でのコミュニケーションを行うための基礎的な国語力や英語力、社会の動向に関心を持ち、図表や資料を読み取ったり、図表を用いて表現したりするための数学や理科、社会に関する基礎的な知識・技能を有する人。

(2) 思考力・判断力・表現力

「人の健康と栄養」に強い関心を持ち、地域や社会における日常の身近な問題に気づく観察力、その問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し、自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって説得的に示す表現力、及びこの問題解決プロセスに主体性を持って他者と協働・協創できる態度を有する人。

(3) 主体性等

自らの考えや意見を明確に表現するとともに、多様な価値観を持つ他者の考えや意見も尊重し、互いに理解し合う共感的な人間関係を築きながら、積極的に他者と協働・協創する力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの基本的な知識を幅広く習得していることが大切です。

特に、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために、国語の基礎学力が必要です。また、自分の興味関心を広げるために、様々な本や記事を読むこともおすすめます。

2.入学試験制度と評価

健康栄養学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期C日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜(前期日程)の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

志望理由書にもとづいて健康栄養学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。集団活動試験及び集団討論にもとづ

いて、問題解決のための柔軟な思考力・情報収集力、問題解決の成果を分析する能力と判断力、分析結果を論理的な文章と適切な図表とによって説得的に示す表現力、及びこの問題解決プロセスに主体性を持って他者と取り組む協働・協創性を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置き、調査書にもとづく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜(公募)

志望理由書にもとづいて健康栄養学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。その上で、小論文形式による個別学力検査にもとづいて、知識・技能、身の周りの日常的な問題に気づく観察力や思考力、問題解決の成果を分析する能力と判断力、及び分析結果を論理的な文章によって説得的に示す表現力を評価します。さらに、集団面接、志望理由書、及び推薦書等によって、高等学校等での正課・課外活動への主体性を持った取り組み、及び多様な価値観を持つ他者に対する包容力と他者との協働・協創性等を評価します。

学校推薦型選抜(公募)では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、推薦書等にもとづく主体性等の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜(指定校)

志望理由書にもとづいて健康栄養学科で学修することの意義を理解し、「人の健康と栄養」に関して強い関心を持ち、入学を希望していることを確認した上で面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び他者との協働・協創性を評価します。

学校推薦型選抜(指定校)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜(附属校)

【専願】

志望理由書にもとづいて健康栄養学科で学修することの意義を理解し、「人の健康と栄養」に関して大いに関心を持ち、強く入学を希望していることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び他者との協働・協創性を評価します。面接の結果に重点を置き、志望理由書と推薦書にもとづく知識及び思考力等の評価を加味して多面的・総合的に評価します。

学校推薦型選抜(附属校・専願)では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて健康栄養学科で学修することの意義を理解し、「人の健康と栄養」に関して大いに関心を持ち、学習意欲があることを確認した上で、面接にもとづいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び他者との協働・協創性を評価します。面接の結果に重点を置き、志望理由書と推薦書にもとづく知識及び思考力等の評価を加味して多面的・総合的に評価します。学校推薦型選抜(附属校・併願)では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(9) 外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに、志望理由書にもとづいて健康栄養学科で学修することの意義について強い関心を持って入学を希望していることを確認し、面接によって知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働・協創性、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

3.健康栄養学科の教育を通じて養う能力

健康栄養学科では、「人と食」の多面的な学びをベースに、主たるテーマである「人の健康と栄養」を科学的に探究し、栄養士・管理栄養士として「人の健康の回復・保持・増進」に向けて、他者と協働・協創して、問題の解決に当たることのできる能力を身につけます。

具体的には、入学当初から専門的基礎分野の学修が始まり、「社会環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」に分類される科目群において「人の健康と栄養」を学ぶための専門的基礎学力を積み上げます。

また、学年進行に沿って専門分野の学修が連続し、「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」に分類される科目群において、栄養士・管理栄養士に必要な専門的・実践的な知識や技術を身につけます。本学科では、講義・演習・実習の三位一体で「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を身につけます。そして学生が進んで自ら学び、学修活動を行うことによって、「主体性等」が醸成されます。

これらを統合した学修として3～4年次にかけて「臨地実習」や「卒業研究」を

体験します。そこでは4年間を通じて積み上げ、蓄積した専門的な「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」そして「主体性等」を大いに発揮し、栄養士・管理栄養士として必要とされる専門的実践力を身につけられるよう、大学での学修の集大成とします。在学期間を通して、栄養士・管理栄養士を目指す者としての視座から、「人の健康と栄養」を深く考える機会をもち、「人の健康の回復・保持・増進」を支援するために必要な「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を高めます。また、あらゆる場面で要求される的確なコミュニケーション能力を養い、自らの課題とテーマを学問的に追求し、主体性を持って他者と協働・協創する能力を培い、人を思いやれる栄養士・管理栄養士として地域社会の発展に貢献できる人材となることを目指します。

(別表)健康栄養学科 各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法（◎は重点評価項目）

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜(前期日程)	◎	・個別学力検査 ・英語資格・検定(前期C日程のみ) ・調査書	◎	・個別学力検査		
	一般選抜(後期日程)	◎	・個別学力検査 ・調査書	◎	・個別学力検査	○	・調査書
	共通テスト利用選抜(前期日程・後期日程)	◎	・共通テストの成績 ・調査書	◎	・共通テストの成績		
	一般・共通テスト併用選抜	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 ・調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績		
総合型選抜	総合型選抜	○	・集団活動試験 ・集団討論 ・調査書 ・課題レポート	◎	・集団活動試験 ・集団討論 ・志望理由書 ・課題レポート	◎	・集団活動試験 ・集団討論 ・志望理由書 ・課題レポート
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜(公募)	◎	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書	◎	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(指定校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(附属校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書

国際コミュニティ学部

1.求める学生像

国際コミュニティ学部は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。具体的には、Think Globally, Act Locallyを念頭に、社会における多様性とダイナミズムを理解できる思考力と知性を身につけ、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を備えていることを重視します。

国際コミュニティ学部が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における社会・国語・英語の教科に関する知識・技能を有する人。すなわち、地域社会や国際社会における多様性やダイナミズムへの関心や疑問を持ち、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能に加え、伝達の内容に関して論理的に思考・判断・表現する際に基礎となる日本語能力および国際的なコミュニケーションを行うための基礎となる英語の音声・語彙・文法の知識を有する人。

(2) 思考力・判断力・表現力

社会の持続的発展平和な生活の実現のために文献を読み解し、それをもとに

考察し自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって社会に対する幅広い視野を持った意見を説得的に示す表現力を有する人。

(3) 主体性等

社会における相互理解と協力関係の形成に向けて多様な人々とコミュニケーションをとり、それら社会が抱える諸問題や課題の解決に向けて、さまざまな人々と協働して取り組もうとする人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、社会については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り社会を読み解く力の向上に努めてください。国語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。さらに、英語は国際社会を理解し世界の人々とつながるために必要です。

2.入学試験制度と評価

国際コミュニティ学部で学ぶために必要な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価するために、各学科で多様な入学試験を実施し、選抜します。

国際コミュニティ学部

THE FACULTY OF GLOBAL AND COMMUNITY STUDIES

国際政治学科

1.求める学生像

国際政治学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。具体的には、Think Globally, Act Locallyを念頭に、コミュニティ間のグローバルなつながりから社会をとらえる視点を有し、社会が直面する様々な問題を理解し、課題の解決へ積極的に関与するとともに、英語によるコミュニケーション力により広島と世界との架け橋となろうとする志向を備えていることを重視します。

国際政治学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における社会・国語・英語の教科に関する知識・技能を有する人。すなわち、コミュニティ間のグローバルなつながりから社会をとらえる視点と国際的な政治・文化・歴史・生活への知識、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能に加え、伝達の内容に関して論理的に思考・判断・表現する際に基礎となる日本語能力および国際的なコミュニケーションを行うための基礎となる英語の知識を有する人。

(2) 思考力・判断力・表現力

社会との関連性を意識して社会に関わる出来事や問題に気づく観察力、その出来事・問題を理解するために文献を読み解し、それをもとに考察し自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって社会に対する幅広い視野を持った意見を説得的に示す表現力を有する人。

(3) 主体性等

多様な価値観を持つ他者に対する包摂力を備え、主体性を持って社会において人々とつながりを生む人。同時に自らの意図を明確に表明し、さまざまな国の人々と相互協力して課題解決を目指し、意見する能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、社会については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り社会を読み解く力の向上に努めてください。国語・英語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、自分の興味関心を広げるために、日本や世界の国々に関する様々な本を読むこと、多様な体験をしてみることを勧めます。

2.入学試験制度と評価

国際政治学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。前期C日程では、取得した英語資格も加味します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・

3.国際コミュニティ学部の教育を通じて養う能力

国際コミュニティ学部の教育目標を実現するために必要な知識と技能を習得し、課題発見・課題解決に取り組み、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力を持ち、多様な人々と協働する能力を養います。

国際コミュニティ学部の教育を通じて養う能力

表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜(前期日程)の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

志望理由書にもとづいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、小論文試験等にもとづいて基礎となる知識・技能および思考力・判断力・表現力を評価します。さらに、面接等にもとづいて、思考力・判断力・表現力および主体性等を評価します。総合型選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置き、知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜(公募)

志望理由書にもとづいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。学校推薦型選抜(公募)(英語方式)では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、主体性等の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。学校推薦型選抜(公募)(課題映像方式)では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力および主体性等に重点を置き、知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

学校推薦型選抜(公募)(指定資格方式)では、学力の3要素のうち、知識・技能および主体性等に重点を置き、思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

学校推薦型選抜(公募)(指定資格方式)では、学力の3要素のうち、知識・技能および主体性等に重点を置き、思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜(指定校)

志望理由書にもとづいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。学校推薦型選抜(指定校)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜(附属校)

【専願】

志望理由書にもとづいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。

学校推薦型選抜(附属校・専願)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。学校推薦型選抜(附属校・併願)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(9) 外国人留学生選抜

志望理由書にもとづいて国際政治学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、小論文、日本留学試験の成績と面接結果にもとづいて評価・判定します。

3.国際政治学科の教育を通じて養う能力

国際政治や世界の国々に関する知識を習得し、国際共通語である英語の力を伸ばし、社会における課題の発見および解決を目指すことのできる能力、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力を持ち、多様な人々と協働する能力を養います。



1.求める学生像

地域行政学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。具体的には、Think Globally, Act Locallyを念頭に、ローカルなコミュニティの有り様から社会をとらえる視点を有し、社会が直面する様々な問題を理解し、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出すことで、持続可能な社会の担い手になるうとする志向を備えていることを重視します。

地域行政学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

高等学校における社会・国語・英語の教科に関する知識・技能を有する人。すなわち、ローカルなコミュニティの有り様から社会をとらえる視点と政治・行政・生活への知識、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能に加え、伝達の内容に関して論理的に思考・判断・表現する際に基礎となる日本語能力および国際的なコミュニケーションを行うための基礎となる英語の知識を有する人。

(2) 思考力・判断力・表現力

社会との関連性を意識して社会に関わる出来事や問題に気づく観察力、その出来事・問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって社会に対する幅広い視野を持った意見を説得的に示す表現力を有する人。

(3) 主体性等

多様な価値観を持つ他者に対する包摂力を備え、主体性を持って社会において共感的な人間関係を創造する人。同時に自らの意図を明確に表明し、地域と協働して課題解決を目指し、相互理解を図り、社会の発展に貢献する能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、社会については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り社会を読み解く力の向上に努めてください。国語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、自分の興味関心を広げるために、日本や世界の地域社会に関する様々な本を読むこと、多様な体験をしてみることを勧めます。

2.入学試験制度と評価

地域行政学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1) 一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と

(2) 併願

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。学校推薦型選抜(附属校・専願)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【専願】

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。学校推薦型選抜(附属校・専願)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。学校推薦型選抜(附属校・併願)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(9) 外国人留学生選抜

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、小論文試験等にもとづいて基礎となる知識・技能および思考力・判断力・表現力を評価します。さらに、面接等にもとづいて、思考力・判断力・表現力および主体性等を評価します。総合型選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2) 共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3) 一般・共通テスト併用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、一般選抜(前期日程)の個別学力検査、大学入学共通テストの成績および調査書によって多面的・総合的に評価します。

一般・共通テスト併用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(4) 総合型選抜

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、小論文試験等にもとづいて基礎となる知識・技能および思考力・判断力・表現力を評価します。さらに、面接等にもとづいて、思考力・判断力・表現力および主体性等を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力、主体性等に重点を置き、知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5) 学校推薦型選抜(公募)

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。学校推薦型選抜(公募)(英語方式)では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、主体性等の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

学校推薦型選抜(公募)(課題映像方式)では、学力の3要素のうち、思考力・判断力・表現力および主体性等に重点を置き、知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

学校推薦型選抜(公募)(指定資格方式)では、学力の3要素のうち、知識・技能および主体性等に重点を置き、思考力・判断力・表現力の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6) 学校推薦型選抜(指定校)

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出

来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。

学校推薦型選抜(指定校)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7) 学校推薦型選抜(附属校)

【専願】

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。学校推薦型選抜(附属校・専願)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認した上で、面接等にもとづいて主体性、社会の出来事や問題への関心の程度、社会的多様性に対する理解力を評価します。学校推薦型選抜(附属校・併願)では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(8) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(9) 外国人留学生選抜

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認した上で、小論文試験等にもとづいて基礎となる知識・技能および思考力・判断力・表現力を評価します。さらに、面接等にもとづいて、思考力・判断力・表現力および主体性等を評価します。総合型選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(別表)国際政治学科・地域行政学科 共通各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法（◎は重点評価項目）

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等		
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法	
一般選抜	一般選抜(前期日程)	◎	・個別学力検査 ・英語資格・検定(前期C日程のみ) ・調査書	◎	・個別学力検査			
	一般選抜(後期日程)	◎	・個別学力検査 ・調査書	◎	・個別学力検査	○	・調査書	
	共通テスト利用選抜(前期日程・後期日程)	◎	・共通テストの成績 ・調査書	◎	・共通テストの成績			
	一般・共通テスト併用選抜	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 ・調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績			
総合型選抜		○	・小論文 ・調査書 ・自己推薦書	◎	・小論文 ・面接 ・志望理由書 ・自己推薦書	◎	・面接 ・調査書 ・志望理由書 ・自己推薦書	
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜(公募)(英語方式)		◎	・英語 ・推薦書 ・調査書 ・自己推薦書	◎	・英語 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書 ・自己推薦書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書 ・自己推薦書
	学校推薦型選抜(公募)(課題映像方式)		○	・小論文 ・推薦書 ・調査書 ・自己推薦書	◎	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書 ・自己推薦書	◎	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書 ・自己推薦書
	学校推薦型選抜(公募)(指定資格方式)		◎	・推薦書 ・調査書 ・資格・検定等の証明書 ・自己推薦書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書 ・自己推薦書	◎	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書 ・自己推薦書
	学校推薦型選抜(指定校)		○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型選抜(附属校)		○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書

(9) 外国人留学生選抜

志望理由書にもとづいて地域行政学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、および日本語でのコミュニケーション能力等を評価した上で、小論文、日本留学試験の成績と面接結果にもとづいて評価・判定します。

3.地域行政学科の教育を通じて養う能力

政治学、行政学、政策学等に関する知識を習得し、地域の価値・魅力に気づく力を伸ばし、社会における課題の発見および解決に取り組むことのできる能力、その成果を表現するために必要な思考力・判断力・表現力を持ち、多様な人々と協働する能力を養います。